

「柏崎の橋」

40 佐水橋

佐水橋は、市道柏崎14-5号線、佐水と山口の間を流れる鵜川に架かる橋である。近年では「柏崎潮風マラソン」のコースとして使われている。

かつて佐水橋の側に「会田翁紀功碑」があった。この碑は、会田翁こと会田豊蔵が佐水地区の堤防改修工事を行った功績を称えるものである。会田豊蔵は明治34年、35年と二か年にわたり宮田



現在の佐水橋
(右方面が佐水、左方面が山口)

一中川原地内240間を、明治36年には水押地内95間の堤防工事を行った。また、工事費用の大部分を県の補助金が充てられるように尽力した。



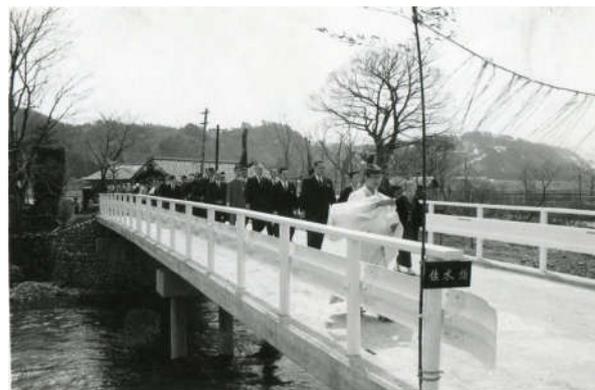
碑は昭和10年7月、上条村村長小林達四郎時代に、佐水区民により建立された。現在は佐水神社前に移されている。

←「会田翁紀功碑」
(佐水神社前)

碑文には、「翁は身を挺して日夜区民を督励し工事を竣工せり」とある。会田豊蔵が区民とともに奮闘する様子が想像される。

元々、佐水橋は木橋であったが、老朽化のため架け替えることとなった。昭和41年10月着工、昭和42年6月10日に工費422万円をかけ完成、長さ27m、幅4.5mの永久橋となった。渡り初めには人々が大勢参加して完成を祝ったという。その後、昭和59年の河川改修により架け替えられ、現在の姿となった。

佐水橋は、鵜川で隔てられた佐水と山口を結び、地区の人々の生活を支える重要な橋である。



佐水橋渡り初めの様子
(昭和42年柏崎市広報写真より)

●参考にした本

- 『黒姫この里で 上条、別俣、野田郷土誌』
(224ウエ) 植木 昭吾・西須 順作 編
- 『高田のよろばた』(224タカ) 高田公民館 編
- 『いしぶみ人物伝—石が伝える郷土の先人たち—』
(224Kフル) 柏崎ふるさと人物館 編
- 「広報かしわざき」 昭和42年5月号